

MARU。architecture

森田 祥子 氏 講演会

茨城大学
こうがく祭 2026

11.07 (Sat)

14:00-15:30

(13:30 開場)

茨城大学日立キャンパス

E1-10 教室

花重リノベーション
© Takuya Seki

重なり合う建築 — 時間 / 環境 / 社会 —

当日参加可
参加費無料

お申込みはこちら▶





森田 祥子 氏 (MARU。architecture)

経歴

1982年	茨城県つくば市生
2008年	早稲田大学大学院 修了
2010年 - 2013年	NASCA プロジェクトスタッフ
2010年	MARU。architecture 設立
2011年 - 2014年	東京大学大学院 特任研究員
2013年 -	MARU。architecture 共同主宰
現在	日本大学大学院 非常勤講師

私たちが生きる現代の日本社会では、都市やその基盤は所与のものとして存在しています。あらゆる土地には文脈があり、風土があり、生態系やコミュニティがあります。なので、**建築をつくるという行為は、そこに未だない新しいものをつくることであると同時に、既にあるものたちの関係を再構築することでもあります。**

私たちは建築を考える時、その土地の歴史や文化、環境を調べ、現地へ行って暮らす人々と話をし、風景を読み解くことから始めます。そしてそこに既にあるものの美しさ、豊かさにそっと手を重ねるようにして建築をつくり、**次の時代へとみんなでリレーしていくことを目指しています。**新築か改修か、都市か建築か、あるいは自然か人工かといった区別はもはやなく、**場を取り巻く全てが相互に影響しあう「関係」そのもののデザインです。**そしてその「関係」には時間による変容をも含んでいます。

このレクチャーでは4つのプロジェクトをベースに私たちがこれまで考えてきたこと、これから考えたいこととお話します。成熟した社会の中で未来を担うみなさんと、建築をつくる楽しさを分け合える時間になると幸いです。

松原市民松原図書館 (2019-)

農業用ため池の中に建つ図書館。縮小していく都市において、決して失われない知の砦として、まちに点在する古墳から着想し、永く遺り続ける建築を目指した。徐々に埋め立てられていく農業用ため池を、設計を通じて都市の環境装置として再評価している。

花重リノベーション (2023-)

明治初期から続く登録有形文化財の老舗花屋に、まちに開いたカフェを併設させて再生したプロジェクト。増改築を繰り返してきた木造群を保存活用するにあたり、ある時点に戻して凍結するのではなく、変化し続ける状態そのものを継承する動的保存を試みた。

笹島高架下オフィス (2023-)

東海道新幹線の高架下に絡みつく木造オフィス。都市を分断する高架橋に対して柔らかな木架構を差し込むことでヒューマンスケールな居場所を立体的に生み出し、都市と身体のスケールをグラデーションに繋ぐ存在へと転換した。

伊賀市旧上野庁舎再生 (2025-)

近年急速に失われているモダニズム建築を再生し、次の時代へと繋ぐプロジェクト。坂倉準三が設計した1964年竣工の庁舎を図書館・ホテル等のにぎわい拠点へと整備した。既存建築を都市的に扱い、その環境や空間的価値を現代的技術により洗い出している。

作品

南国市立図書館／伊賀市旧上野庁舎再生
花重リノベーション／笹島高架下オフィス
松原市民松原図書館／土佐市複合文化施設 など

賞歴

日本建築学会作品選奨 2015・2022・2025
JIA 優秀建築賞 2024
東京建築賞 2025 リノベーション賞 一般部門一類最優秀賞
第62回 BCS 賞 など

重なり合う建築 — 時間 / 環境 / 社会 —

主催

後援

お問合せ

茨城大学工学部都市システム工学科 学生有志
更尽会 (茨城大学工学部都市システム工学科 同窓会)
茨城大学大学院 理工学研究科 都市システム工学専攻 佐野
Mail : zuoyeliyang344@gmail.com